【資料２】

適正規模等に関するアンケート調査結果（中学校）

１　生徒

（１）自分の学年の生徒数について（29 ページ）

【全体】

・ほとんどの生徒が、現状の生徒数に対して「適正」と感じている。

【学年規模別】

・20 人以下の学年では、約７割の生徒が「少ない」と感じている。

・36～50 人の学年でも「少ない」と感じる生徒の割合が大きくなっているが、これは１学級当たりの生徒数が少ないためと考えられる。

・50 人を超えると、ほとんどの生徒が「適正」と感じている。

（２）自分の学校の現状について（30～33 ページ）

【全体】

・いずれの項目もほとんどの生徒が概ね「できている」と感じている。

【学年規模別】

○多くの友達と力を合わせて勉強や運動ができる

・「26～30 人」、「41～50 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっているが、規模による傾向は特に見られない。

○授業などで先生にていねいに教えてもらえる

・「11～20 人」及び「61～70 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が比較的大きくなっているが、規模による傾向は特に見られない。

○困ったことがあった時にすぐに先生に気づいてもらえる

・「11～15 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が特に大きくなっているが、概ね「41 人以上」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっていることから、１学年２学級以上になると、困った時になかなか先生に気づいてもらえないと感じるようになると考えられる。

○友達をたくさん作ることができる

・「21～25 人」及び「31～35 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっているが、規模による傾向は特に見られない。

○ほかの学年の子とも一緒に活動することができる

・全体的に「できていない」と答えた生徒の割合が大きく、中学校では小学校と比べて異学年で活動する機会自体が少なくなっていると考えられる。

○体育祭などの行事が盛り上がる

・全体的に概ね「できている」と感じている。

○休み時間に運動場や体育館をたくさん使うことができる

・全体的に「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっているが、「11～25 人」及び「36～60 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が特に大きく、１学級当たりの生徒数が多くなると、休み時間に運動場や体育館を使用しづらくなると考えられる。

○いろんな先生と接することができる
・「16～20 人」の規模でも「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっているが、概ね「26 人以上」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっている。

○やりたい部活動を選ぶことができる
・「11～15 人」の規模で「できていない」と答えた生徒の割合が大きくなっていることから、「15 人以下」の規模になると部活動の選択に支障を感じるようになると考えられるが、全体的にはあまり不都合を感じていないということが見て取れる。

2　保護者

（1）学校の良い点について（37～38 ページ）

【全体】
・「特にない」と答えた保護者を除くと、「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われている」と答えた保護者が最も多い。

【学校別】
・比較的規模の大きい学校（第三・亀川）では「体育祭や学習発表会等の学校行事が盛り上がる」ことを「良い」と感じている保護者が多い。

（2）学校の課題点について（39～40 ページ）

【全体】
・「特にない」と答えた保護者を除くと、規模の大小を問わずほとんどの学校の保護者が「部活動が限定され、選択の幅が狭い」ことを「課題」と感じている。

【学校別】
・全学年が「１学年１学級」となっている下津第一中学校では、ほとんどの保護者が「クラス替えができず、人間関係が固定化している」ことを「課題」と感じている。

（3）望ましい生徒数について（41～43 ページ）

【１学年当たりの望ましい生徒数】
・「35 人以下（１学年１学級)」を望ましい生徒数と答えた保護者が約半数で、そのうち約７割が「21～30 人」程度を望ましいと考えている。
・「36～70 人（１学年２学級)」を望ましい生徒数と答えた保護者は約３割で、その中でもより多い生徒数を望む傾向が見られる。
・「71 人以上（１学年３学級以上)」を望ましい生徒数と答えた保護者は約２割で、「71～105 人（１学年３学級)」を望ましいと考える保護者が多い。

【望ましい生徒数の理由】
・「35 人以下（１学年１学級)」が望ましいと答えた保護者は、「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」ことを期待している。
・「60 人以下」であれば、「きめ細かな指導が行われる」と考えている保護者が多い。

適正規模等に関するアンケート調査結果（中学校）

・「36 人以上（１学年２学級以上)」が望ましいと答えた保護者は、「クラス替えにより人間関係が広がり、友達がたくさんできる」ことを期待している。

（４）学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点について（44 ページ）

・「生徒の通学条件と安全性の確保」に配慮すべきと答えた保護者が約４割と最も多く、次いで「クラス替えができる程度の生徒数の確保」、「学校施設の充実」となっており、小学校と同様に「通学区域が広がること」を懸念する保護者が多いのではないかと考えられる。

3　教職員

（1）現在の学校規模について（46 ページ）

【全体】

・半数以上の教職員が、現在勤務している学校の規模を「小さい」と感じている。

【学校規模別】

・「５学級以下（クラス替えができない学年が生じる規模)」の学校では、ほとんどの教職員が「小さい」と感じている。

・「６～11 学級」の学校では、半数近くの教職員が「小さい」と感じており、ごく少数ではあるが「大きい」と感じている教職員もいる。

※海南市でこの範囲に該当する学校は全て６学級で７学級以上の学校はない。

（2）学校の良い点について（47 ページ）

・「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導を行いやすい」ことや「担任以外の教員も生徒の様子を把握できる」ことを「良い」と感じている教職員が多く、「クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、友達がたくさんできる」ことを「良い」と考えている教職員はほとんどいない。

（3）学校の課題点について（48～49 ページ）

・現在の学校規模を「小さい」と感じている教職員は「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」ことや「集団の相互作用による競い合いや切磋琢磨する機会が少ない」こと、「部活動の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい」ことを「課題」と感じている。

（4）望ましい生徒数について（50～52 ページ）

【１学年当たりの望ましい生徒数】

・「35 人以下（１学年１学級)」を望ましい生徒数と答えた教職員が半数で、そのうち約８割が「16～25 人」程度を望ましいと考えている。

・「36～70 人（１学年２学級)」を望ましい生徒数と答えた教職員は約２割で、そのほとんどが「41～60 人」程度を望ましいと答えていることから、１学級当たりの児童数は「20～30 人」程度が望ましいと考えていることが見て取れる。

適正規模等に関するアンケート調査結果（中学校）

・「71～105 人（１学年３学級)」を望ましい生徒数と答えた教職員は２割超で、「１学年２学級」を望ましいと考える教職員よりも多い。

【望ましい生徒数の理由（学習面・生活面)】

・「１学年２学級以下」の規模が望ましいと答えた教職員のほとんどが、「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」点で望ましいと考えている。

・「１学年３学級以上」の規模が望ましいと答えた教職員は、「生徒が互いに競い合い、切磋琢磨する機会が多くなる」ことや「クラス替えにより人間関係が広がり、友達がたくさんできる」点で望ましいと考えている。

【望ましい生徒数の理由（学校運営面・地域活動面)】

・「１学年 25 人以下」の規模では、「全職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい」と考えている教職員が多い。

・「１学年３学級以上」の規模になると「経験、教科、特性などの面でバランスの取れた教員配置を行いやすい」と考える教職員が多い。

（５）学校規模の適正化を検討する上で重視すべき点について（53 ページ）

・約６割の教職員が「生徒数や学級数」を重視すべきと考えており、次いで「学校施設の充実」が重要であると考えていることから生徒数や学級数が増加することによる施設面での不足を懸念していると考えられる。

適正規模等に関するアンケート調査結果（中学校）

4　生徒・保護者・教職員へのアンケート結果から考える望ましい学校規模

生　徒：　・**１学年当たり 20 人以下**になると、約７割が「少ない」と感じ、**１学年当たり 50 人を超える**と「適正」と感じる生徒が増える。

・**１学年当たり 15 人以下**になると部活動を選択する上で支障が生じる。

保護者：　・約半数※1が**１学年１学級**の規模を望んでおり、その大半が**１学年当たり 21～30 人**程度を望ましいと考えている。

・一方で、**１学年２学級以上**の規模を望む保護者も約半数いる中、複数学級を望ましいと考える保護者はより多くの生徒数を望む傾向が見られ、保護者のニーズは二極化していると考えられる。

教職員：　・約半数※2が**１学年１学級**の規模を望んでおり、その大半が**１学年当たり 16～25 人**程度を望ましいと考えている。

・一方で、１学年２学級以上の規模を望む教職員も約半数いる中、保護者と同様に、複数学級を望ましいと考える教職員ははより多くの生徒数を望む傾向が見られ、１学年２学級よりも**１学年３学級**が望ましいと考える教職員の方が多い。

※１　「１学年１学級」の規模を望ましいと回答した保護者の中には、「望ましい生徒数の理由」や「学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点」として「クラス替えができること」と回答している保護者が 65 名おり、それらの保護者は望ましい生徒数として１学年当たりではなく１学級当たりの生徒数を回答している可能性がある。（次ページ参照）

※２　「１学年１学級」の規模を望ましいと回答した教職員の中には、「望ましい生徒数の理由」として「クラス替えができること」と回答している教職員が２名おり、それらの教職員は望ましい生徒数として１学年当たりではなく１学級当たりの生徒数を回答している可能性がある。（次ページ参照）

以上の結果を総括すると、生徒・保護者・教職員の大半が望ましいと考えている規模は、「学校規模：１学年２～３学級」、「学級規模：16～30 人程度」、「全校児童：100～270 人程度」と考えられる。

適正規模等に関するアンケート調査結果（中学校）

①望ましい生徒数の理由として「クラス替えができる点」を答えた保護者の内訳

16～20 人	1 人	１学年１学級 **※望ましい生徒数とその理由が矛盾**	**11 人**
21～25 人	5 人		
26～30 人	4 人		
31～35 人	1 人		
36～40 人	11 人	１学年２学級	45 人
41～50 人	11 人		
51～60 人	9 人		
61～70 人	14 人		
71～105 人	38 人	１学年３学級	38 人
106 人以上	14 人	１学年４学級以上	14 人
合計	108 人		108 人

②学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点として「クラス替えができる点」を答えた保護者の内訳

11～15 人	1 人	１学年１学級 **※望ましい生徒数と配慮すべき点が矛盾**	**58 人** （うち①との重複者４名）
16～20 人	7 人		
21～25 人	17 人		
26～30 人	25 人		
31～35 人	8 人		
36～40 人	6 人	１学年２学級	34 人
41～50 人	8 人		
51～60 人	4 人		
61～70 人	16 人		
71～105 人	25 人	１学年３学級	25 人
106 人以上	12 人	１学年４学級以上	12 人
合計	129 人		148 人

③望ましい生徒数の理由として「クラス替えができる点」を答えた教職員の内訳

21～25 人	1 人	１学年１学級 **※望ましい生徒数とその理由が矛盾**	**2 人**
26～30 人	1 人		
51～60 人	1 人	１学年２学級	1 人
71～105 人	7 人	１学年３学級	7 人
106 人以上	2 人	１学年４学級以上	2 人
合計	12 人		12 人